



## 説教要旨 「イエスに聞け」

ルカによる福音書9章28～36節



この日イエス様はペトロ、ヨハネ、ヤコブの三人の弟子を連れて山に登られました。そしてそこで、イエス様の姿が変わったことが記されています。イエス様の姿が変わると共に、モーセとエリヤと言う旧約を代表する二人の預言者が、イエス様と語り合っているのを弟子たちは見ました。これを見たペトロは、「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです」(33節)と言いました。ペトロは、小屋を三つ建てることによって、栄光に輝くイエス様と、そしてモーセとエリヤをその場に留め、そこに行けばいつでも、それを人々が見ることができるようになりたいと願ったのです。しかし、ペトロがそこに留めたいと願ったイエス様たちの姿は、雲に包まれ見えなくなり、神様の声が響きました。「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」。そして「その声がしたとき、そこにはイエスだけがおられた」のです。

栄光に輝くイエス様は、人間が作った建物に押し込め、人間が管理できるようなものではないのです。神様が私たちに求めておられるのは、自分の都合の良いようにイエス様を地上に押し留めることではなく、「これに聞け」(35節)ということです。神様の独り子であり、神様が選び遣わされた救い主であるイエス様に聞くこと、そのみ言葉に耳を傾け、従っていくこと、そのことの中でこそ、私たちはイエス様に出会うことができるのです。

イエス様に従って歩む私たちの人生が、何の苦しみもない、喜びのみに満たされた人生であることはないでしょう。そこには苦しみもあり、悲しみもある。むしろキリスト者だからこそ不当に扱われることだって珍しいことではない。しかし、そうであったとしても、このイエス様に聞き従っていくことの中でこそ私たちは、弱く罪深い私たちをご自身の十字架の死によって赦し、神様の民として新しく生かして下さる救い主と出会い、この方が共にいて下さる喜びに生きることができるのです。



(2019・2・17 説教者：稲垣真実)